

第216回 劇団東演公演

2025年4月

# 「獅子の見た夢」

## 感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会

# 獅子の見た夢

様江

NPO法  
ふなばし演劇鑑賞会

橋麦

羽生直人

二本柳

常染怜

古山華香

墨野有志

宇坂ひなの

NPO法  
ふなばし演劇鑑賞会  
第二一六回例会  
二〇二五年四月一日(土)  
於船橋市民文化ホール

原作 堀川恵子  
『戦禍に生きた演劇人たち』  
(講談社文庫)  
脚本 シライケイタ  
演出 松本祐子



秋登剛

奥山嵩

小堀隆弘

劇団 東演 公演



全く知らなかつた内容の芝居でした。

太平洋戦争の時代、全ての芸術が軍事的なプロパガンダに利用され、従わなければ生きる道が無く、とうとう死地に追いやられた無惨な出来事。実際に重い内容でした。

それでも遺志を継いでいこうとする演劇人の魂の叫びのようなものを受け取りました。獅子舞の中に万感の思ひが込められているのでしよう。交流会は熱かつた！沢村貞子の「私の浅草」に出てくる丸山定夫とのエピソード、原作者の堀川恵子氏のファンの人の発言などがあり、私はビックリすることばかり。大変な時代の上に我々は生きているのだと改めて思いました。新藤兼人監督の「さくら隊散る」の映画にたどり着き、堀川氏の本（「戦禍に生きています」と改められていました）を知り、学びの多い芝居でした。こういう出会いがあるのは演劇鑑賞会ならではのことだと感謝しています。

そうそう、丸山定夫や徳川夢声が出演している「吾輩は猫デアル」という古い映画をYOUTUBEで見つけたのも収穫でした。

（フェローシップ 谷 女 70代）

前から2列目で観やすかつた。迫力があつた。今まで一番気に入つた。嬉しい表現、悲しい表現がはつきり心に伝わつた。歴史を小学生の時に習つて以來からわかりやすかつた。

（華まる 山崎遥太 中学2年）

今回は久しぶりに二階席で鑑賞し舞台全体がよく見えて、観劇とはこういうものだったのかとしみじみ味わつた。

その反面、耳の遠いぶんセリフがいまいち聴きづらかつた。けれど、ホールで求めた『戦禍に生きた演劇人たち』という原作を読み、これを基にした脚本で、うまく練り上げられたいい芝居だったことを理解した。

作家・三好十郎、演出家・八田元夫、

俳優・丸山定夫が主人公で弾圧に苦し

められ絡み合いながら話は展開し、若

い川村禾門と森下彰子と結婚しても

悲恋におわる挿話を巧みに挟み込ん

で芝居は流れしていく。中央の長細い殺

風景な台の上で、戦中も戦後もその演

劇人の姿が演じられていく。広島の原

爆に命を落とした名優・丸山定夫の骨

壺を運ぶ八田元夫が幕開けに出て、

また幕尻の戦後の場面にも三好・八田

とともに仏になつたはずの丸山たち桜

隊の仲間が出てくる。

観客はごちゃや混ぜな時代をながめ不思議に思うけれども、この芝居は新劇人の心に描く「夢」を具体化した舞台なのだと解かれば了である。そして、人間の、演劇人の「夢」を戦争が、日本という国家がいかに打ち壊し妨げたか、妨げるだけならまだしも、夢追う人を拷問したり殺したりもしたのだ。そういう時代に戻らぬことを祈り、今後もぬかりなく権力に流されないよう、しつかりガードを固めて生きろと、この劇は教えてくれた気がした。

戦争に関係ないと思つていても、戦争は全ての人々を巻き込んでしまう。今の世界のあちこちで紛争があるので、なぜ戦争が止められないのか、心が痛む。（ミモザ 無記名 女 80代）

劇団東演の先輩たちのご努力ご苦労をはつきり見せていただいた。劇団の今後ますますの発展を祈念し、ふなばしで再会することをつよく願っています。

（マゴメ ムラタ）

戦時中、危険を覚悟で芝居を続けた演劇人たちの姿をリアルタイムで見ているようで、犠牲になる広島に向かう時は涙が出てしました。戦後8

0年、日本がアメリカと戦争したこと

も知らない若者が増えていると聞きました。一方で、南西諸島では公道を堂々と戦車が走り、いたる所で軍事訓練が行われるなど、知らない間に戦争の準備が進んでいます。八田や丸山定夫が教えてくれた平和の尊さを、私たちはしっかりと受け止めて守つていかなくては、

（ハッピープリンス 田中弘之 60代）

久し振りに心に沁みる芝居でした。

来年もやって欲しい！（無記名 女）

戦争反対！

（ガーベラ 奥田和佳 小学5年）

はるちゃんがやめるところが、絆を感じ、心に残つたと思ひます。広島に行く時の話し合いの場面は、心に残りました。最後に、あのことは悲しいお話を

しつかり受け止めて守つていかなくては、

（X ふなばし 滝桂子）

久し振りに心に沁みる芝居でした。

戦争は不幸である。役者の苦しみは、自分で役を選べるのか？ 苦しみ、反戦、

（モツキンポット 糸永幸子 70代）

素晴らしい。

（モツキンポット 糸永幸子 70代）



両親が関西で劇団にいて、父が海軍に入り呉市に移り私は生まれた。父が戦死したので、広島の祖母の家に移転し、被爆しました。私は今86才、一人助かった自分が、世界の平和のため、被爆の体験を語っています。本日の演目は、私の人生の様でした。今後も頑張つて下さい。（無記名 女 80代）

じっくりと心に沁みる良い芝居でした。今はピッタリだと思います。

（石本キヨ 70代）

戦前の演劇人の鬨いがいかに人間臭く、かつ困難であったか良くわかりました。今、政府は世論を誘導し、巨額の軍事費を注ぎ込み、軍備を進めていました。戦争が始まつたら、芝居を演ずることも、観ることも困難になるであろう。平和であつての文化・芸能、そして我々の生活。今回の芝居、「歴史に学ぶ」との大切さを改めて感じました。

（宙 田口誠雄 80代）

戦時下の苦難の中、それでも人々が演劇に希望を託した姿に心打たれました。芸術の力を感じました。ありがとうございました。

（オリオン 佐藤大河 高校2年）

最後のタイトル回収が見てて面白かったです。・紙を最後出すのはどうやつたのか気になりました。

（ガーベラ 奥田和誠 中学2年）

八田、三好、丸山らの演劇にかけるすさまじい熱気（狂気？）・熱量と当時の演劇人のほとばしる演劇愛、芝居愛に感服させられました。「劇中劇」での演出家と役者とのやりとりなど、芝居づくりの一端も教えてもらいました。丸山役の南保さんの獅子舞い、圧巻でした。

（無記名 80代）

舞台は戦中。日本移動演劇連盟に参加し、戦意を鼓舞する国策芝居を上演しなければ演劇活動ができない状況に追い込まれ、団員らは苦悩・葛藤の末に、「苦楽座」は「桜隊」と強制改称させられ、軍都・広島での移動演劇を選択、そして原爆で犠牲に…。

原作「戦禍に生きた演劇人たち」で、著者・堀川恵子氏は序章の最後に「彼らが生きた時代に向き合う時、私たちが改めて反芻することになるだろう。あの時と同じ空気が今、この国に漂つてはいやしないか。頭上を覆い始めたどす黒く重い雲から、再びどしやぶりの雨が降り出しやしないか。そしてその時、果たして私たちは一足を踏ん張つて立ち続けていくことができるだろうかと。」と著しています。

今年度の国家予算中、軍事費は八・七兆円（三年間で一・六倍、三・三兆円増加）。すでに特定秘密保護法、安保法制、共謀罪といった戦時法制も整えられています。「新しい戦前」とも目される現下、ものすごく意義のある芝居に出会い、多くの方に観ていただきたいと思いました。

（荒馬 草野高徳）

戦争の中、生まれました。いいことはひとつもなかつた！戦後、演劇人が生き生きと生きた様子に、感激と共に「平和」の大切さを改めて思う。

（無記名 80代）

とても良かった。筋も演技も共に！（じやんけん 清宮昭夫 80代）

戦争の中でも、芝居をずっと続けたひとつもなかつた！戦後、演劇人が生き生きと生きた様子に、感激と共に「平和」の大切さを改めて思う。

（アマンダ 菅野ちいか 中学2年）

昨日、ふなばし演劇鑑賞会の公演、『獅子の見た夢』を拝見しました。桜隊、丸山定夫、三好十郎については、なんとなく知つておりましたが、原作の堀川恵子さん、脚本のシライケイタさん、演出の松本祐子さん、劇団東演の方々の協力と演技で新たなドラマとなり、戦禍にもめげず芝居をやめなかつた桜隊と、丸山定夫たち桜隊が犠牲になつた広島原爆と戦争の無惨さが、よりよく理解出来たと思います。

最後、劇中劇として演じられる赤い獅子舞と俳優の方々の明るい色の着物姿が美しく、戦禍にもめげずに芝居を演じ続けたかつての丸山定夫さんたちと、新たなる戦前？とも見える今の時期に、タイミングよい上演だと思いました。最後の獅子舞は時代に負けないぞ！との意気を見せる日本の若い人々の平和への願いであると共に、新劇を継承し続けようとのふなばし演劇鑑賞会の意気と映りました。演出基本の明るい和の世界に打たれました。広島原爆で亡くなつた名優丸山定夫さんへの追悼でもありました。

（二の葉 水崎野里子 70代）

人間を大事に取り扱っているのが良く分かつた。素晴らしい作品だと思いました。

（バジナ 無記名 70代）

交流会は会員と劇団員とのやり取りが面白く、樂しむことが出来ました。

（ハッピープリンス 春日井治 70代）

今年度の国家予算中、軍事費は八・七兆円（三年間で一・六倍、三・三兆円増加）。すでに特定秘密保護法、安保法制、共謀罪といった戦時法制も整えられています。「新しい戦前」とも目される現下、ものすごく意義のある芝居に出会い、多くの方に観ていただきたいと思いました。

（二の葉 水崎野里子 70代）

広島での惨状を知っている我々には、演劇人が広島に行かないでくれると祈るしかありません。戦争が何もかも奪つてしましました。一度と戦争を起こさない、全ての人の思いに繋がる演劇でした。胸が詰まり、言葉がありません。

(宙 石橋須美江 70代)

戦争があつた時代の大変さが良く分かつた。最後の場面で、広島に行つていた劇団員が演技をしていたが、あれは本当にそこで演技をしていたのか、想像だったのかわからなかつた。また、生きていたとしたら、なんで生きていたのかわからなかつた。

(ルナ 中西洸貴 高専3年)

自分には難しかつた。  
(子育てネット 後藤つばめ 小学5年)  
「それが人間の道」自分のやりたいことをやりたいですね。そして、どうしても譲れないことは守りたいとつくづく思う劇でした。獅子舞、すてきでしたね。

(無記名 女 60代)

とても感動しました。最近観たお芝居の中で一番です。「さくら隊」の話は今までにも知つていたつもりでしたが、広島へ行くことになつた経緯や、一人の思いが良く伝わつてきました。ありがとうございました。

(KISS3 弘重三枝子 60代)

満足だつたところ。1. 戦争を生きる人々の描写が生き生きと鮮明に感じられるすばらしい演技。2. 最初の「結末」へと繋がっていく物語性が美しい切なかつた。3. 「獅子の見た夢」というタイトルの意味が最後に感じられる。不満だつたところ。2のせいで最初は話の流れが分かりづらい。

(子育てネット 千田帆夏 中学3年)

多くの人たちに観てもらおうと演劇を夢見ていた若い人たちが、愚かな戦争で命を絶つた…。演劇界に限らず他の芸術の部分でも、どれだけの悲劇があったのか。想像するだけでも辛い。

最後の獅子舞では涙が出てきた。生きるということは、自分でやりたい道をしつかり進むこと…それが悔いのない人生だという、そのセリフが胸に刺さつた。たとえ戦争でなくてもね。ありがとうございました。

(亜童夢 伊澤輝美 70代)

戦時中の芝居人という存在すら知らない題材だったが、分かりやすく心に残る演劇だった。自分たちのやりたいことと政府の圧力との板ばさみにされているシーンは、戦時中ならではで、印象的だつた。特に、純に赤紙が来たシーンで、万歳を止めたのがとても心に残つた。戦争の話では暗い雰囲気になりがちだが、登場人物の明るさおかげで観やすかつた。

(花いかだ 吉田葵 高校2年)

私は終戦直後の生まれですが、私が生を受ける前に、こんなドラマがあつたことに胸がちぎれそうです。獅子の舞、素晴らしかつた。(無記名 女 70代)

戦争の不条理、多くの悲劇、現在の世界のあり様。心が壊れそうです。セリフは滑舌よく楽しめました。

(菊菱 金子久恵 70代)



おめでとうございます！

### 「獅子の見た夢」サイン色紙当選者

1344 菊菱 金子久恵さん  
2023 ことの葉 水崎野里子さん  
2196 kiss3 弘重三枝子さん

※当選した方は申し出ください。

アンケート枚数 32枚	(回収率2.3%)
当日会員数 1,794名	
例会参加者 1,406名	(参加率78.4%)